

三心を磨く

学校だより NO. 37
平成30年 10月5日(金)発行
須坂市立東中学校
文責：金井 勝久(教頭)
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

◇須坂荘の皆さんへ、今年も車イスを贈りました～30年を越えた活動に～◇

JRCの活動の一環として、本校が取り組んでいるものの1つに「須坂荘でのボランティア活動」があります。本年度は、サルビアとコスモスの縦割り2チームが、それぞれ須坂荘に訪問させていただき、清掃ボランティアをさせていただきました。そしてまた、夏休み行われた「資源回収」の収益金の一部を使い、車イスを3台購入し、入所者の皆さんに使っていただくこととなり、その贈呈式を9月20日(木)に行いました。その際、須坂荘の中島所長さんが、「本校と須坂荘との交流」について、いろいろお話しくださいました。



須坂荘の開所は昭和61年の10月、今から32年前のことです。そして本校がボランティア活動をさせていただきはじめたのが昭和62年の4月、本校と須坂荘との関係は、それ以来続いています。最初は、週に1度ベッドのシーツ交換や清掃、入所者の方々との会話などから交流が始まり、平成8年からは電動ベッドや車イスなどの贈呈も行い、平成30年、今日に至ります。



生徒たちは、須坂荘の入所者の皆さん、地域のためにご尽力いただいた大先輩の方々に感謝の思いを込め、活動をさせていただいています。「自分たちにはできることは何か？」を考え、自分たちができる「清掃ボランティア」に取り組み、PTAの皆さんと共に行った資源回収の収益金を使って、入所者の皆さんに役立つものを贈ろうと活動を進めています。

贈呈式では、中島所長さんより「先輩方から続けている、東中の皆さんの善意活動の輪に入所者・職員一同感謝しています」「資源回収の貴重な収益金を使って、毎年車イスを贈ってくださる気持ちに感謝しています」などと、過分なお言葉をいただきました。

ボランティア活動はもちろん、車イスを贈呈するこの活動も、続けていけたらと思います。

◇◇東祭が終わり、学習の2学期へ～10月5日は総合・中間テスト！～◇◇

東祭が終わりました。9/30・10/1の2日間の休みが東祭から学習への切り替えの時、明日はテストが行われます(3年生は「総合テスト④」、1・2年生は「2学期中間テスト」)。

3年生はいよいよ「高校入試」です。今週は、県教委の第1回志望校調査が行われ、10/19に発表になります。自分の夢に向かって、志望校の選択をはじめてほしいと願っています。

1・2年生は中間テストです。例年、1年生はこのテストで得点を大きく下げる傾向にあります。理由は、テスト範囲が広がったり、学習内容を忘れてしまったりなどが原因です。今週は部活動がなく、補習やプレテストが行われています。よい準備をして、自分を高めてほしいところです。

◇東祭の裏舞台より～3年連続のグランド水抜きでチャレラン実施に！～

東祭の2日前・前日とたくさんの雨が降りました。連日の雨で、グランドは右の写真の通りの水浸し。グランドというより「沼」といった様相を呈していました。生徒たちも「グランドでチャレンジ・ランキングはできるのかな?」「中止かな?」「出来ないとイヤだな」などと口々に話し、心配の面持ち。正直、「実施は無理かな…」と考えもした状況でした。そんな中のこと、まずは職員による水抜きが始



まりました。雨の中、溝を作ったり、缶で水をくみ出してくださっていた先生、自宅から水中ポンプを持参された先生がいました。

そして生徒たちの力です。全校生徒の力の結集、ボランティアの心意気が素晴らしく、偉大でした。

始めは JRC 委員会が、スポンジやぞうきん、空き缶を使って水抜きをしました。スポンジやぞうきんに水を吸わせ、バケツにしぼりとる。空き缶に水をため、バケツに移す。そういった地道な作業をくり返し、黙々と行いました。すると1人、2人、3人と生徒が駆けつけます。自分の委員会活動を終えた生徒たちが、自主的に加勢したのです。とてもさわやかな光景でした。

「自分もやらなきゃ!」「グランドでチャレラン、絶対にやるぞ!」、そんな生徒たちの気持ちが、具体的な行動となって見られた瞬間でもありました。やがて水抜きの輪が、グランドいっぱいに広がり、誰一人遊ばない、意欲的で本気の水抜き作業が約1時間展開されました。

この姿に、生徒たちの成長を感じ、「全校が1つになれる素晴らしさ」を目にしました。

東祭の前日に起こっていたこの姿が、2日間の東祭の大成功を暗示していました。こうした生徒たちの素晴らしさや行動力を大いに認めながら、さらなる高見をめざしていきたいと思います。

◇◇次は、11月10日(土)の『PTA 音楽祭』です!◇◇



東祭の音楽会、ありがとうございました。今年は「コスモス」と「サルビア」の縦割りチームによる「アカペラ・混成四部合唱」が新たにプログラムへと加わり、県歌制定50周年の記念として「信濃の国」も合唱しました。審査委員長の畑中校長先生(長野市真島小)は、「レベルの高い合唱を聴くことができた」「年々歌声が変わり、合唱の質も生徒の意識も向上している」と感想を述べられました。各学級、1学期からの先を見通した取組が結実したように思います。PTA合唱の「たしかなこと」、生徒たちにも講評でした。4回という少ない練習でしたが、毎回多くの皆様にご参加いただき、また、お友達やお仲間をお誘いいただき、素敵な合唱になりました。ありがとうございました。東祭の音楽会は終わりましたが、次に『市内 PTA 音楽祭』が控えています。あと数回の練習ですが、さらにたくさんの皆様にご参加いただき、東中の素敵なハーモニーが披露できたらと思います。